

案

<概要版>

品川区
教育フォーラム
品川教育ルネサンス

-For Next Generation-

- 開催日 平成28年2月20日(土)
- 会場 【午前の部】 全品川区立小学校・中学校(施設一体型小中一貫校)
【午後の部】 きゅりあん

品川教育ルネサンス

～ For Next Generation ～

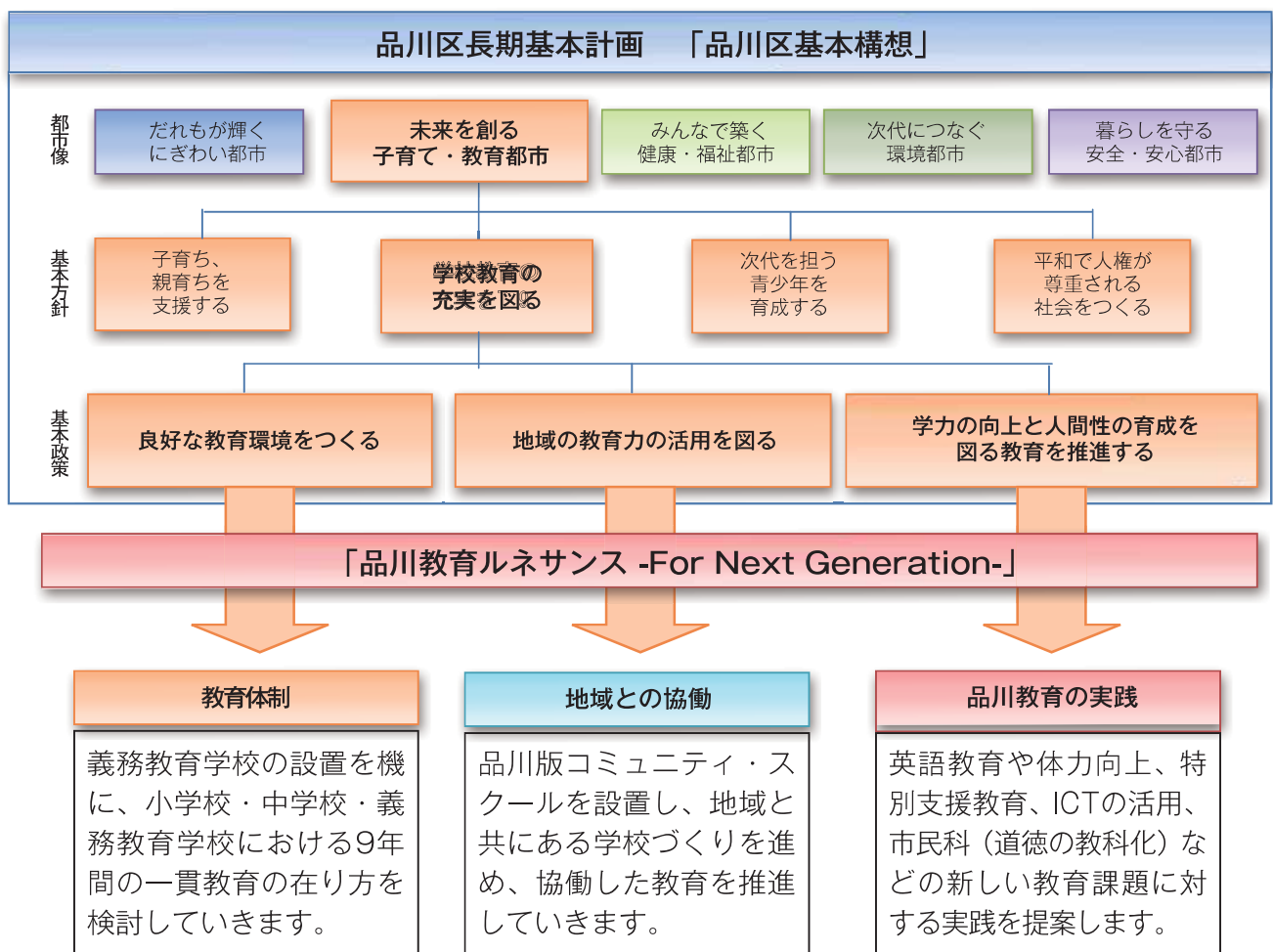
品川区では、次代を担う子どもたちのために、今まで培ったよさを生かしながら、制度の見直しや施策の再構築を図り、新たな「品川教育」を創生する「品川教育ルネサンス -For Next Generation-」を進めていきます。

現在、子どもを取り巻く環境は複雑化し、学校が対応を求められる課題も多様化しています。各学校は、地域や環境、子どもたちの実態を的確に捉え、自ら考え判断して主体的に対応する自律的な学校運営が今まで以上に必要になってきます。

しかし、課題の多様化は深刻であり、もはや学校だけでは対応が困難な状況があります。次代を生きる子どもたちのための「品川教育」を創生するには、自律的な運営ができる力を学校が付けるとともに、保護者や地域が総がかりで子どもを育てるという視点が不可欠になります。

品川区の学校はもともと地域の力で始まり、地域に支えられて成長してきたという歴史的な背景もっています。今まで進めてきた教育改革「プラン21」についても、地域に支えられることで、学校は力を付けることができました。

教育委員会制度の改正や義務教育学校の制度化など、学校教育は転機を迎えています。今まで培ってきたよさを再構築し、これからの時代に合った新しい「品川教育」を共に創っていきましょう。

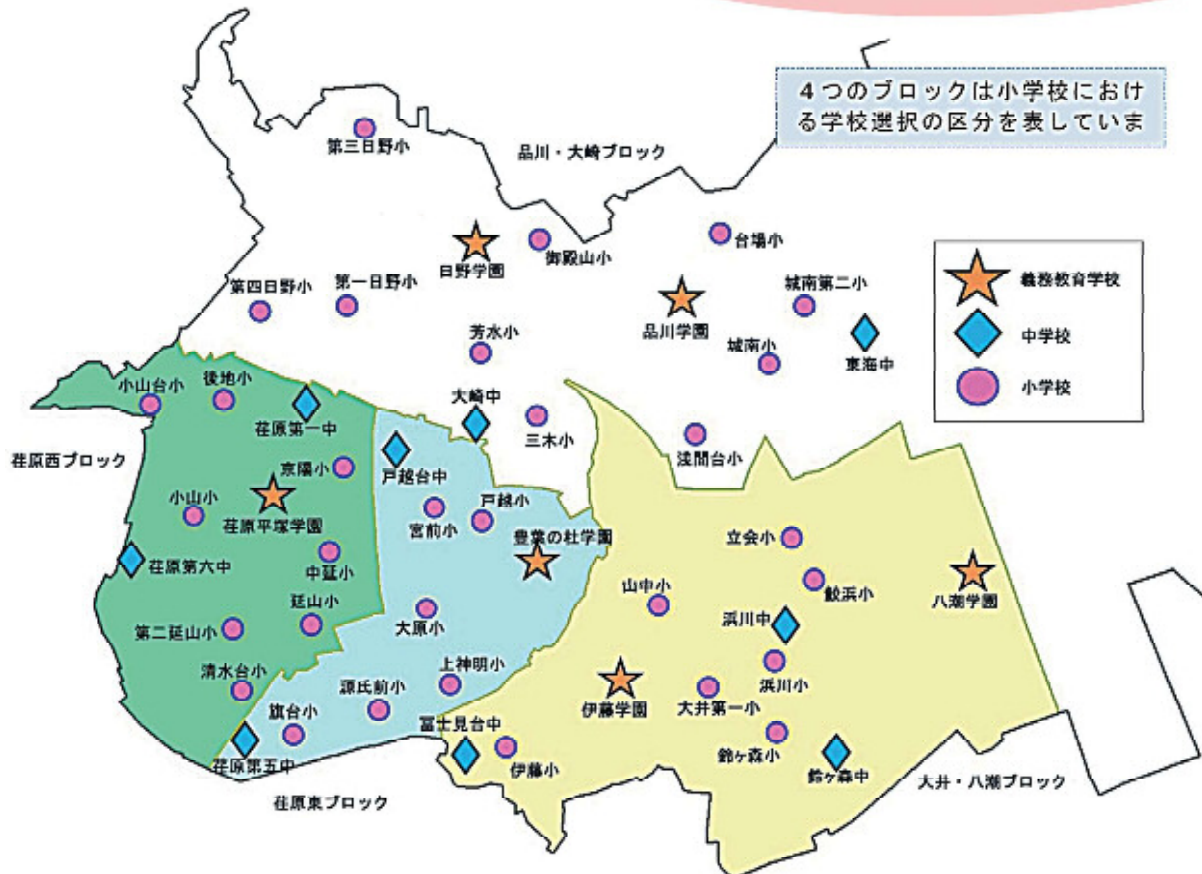
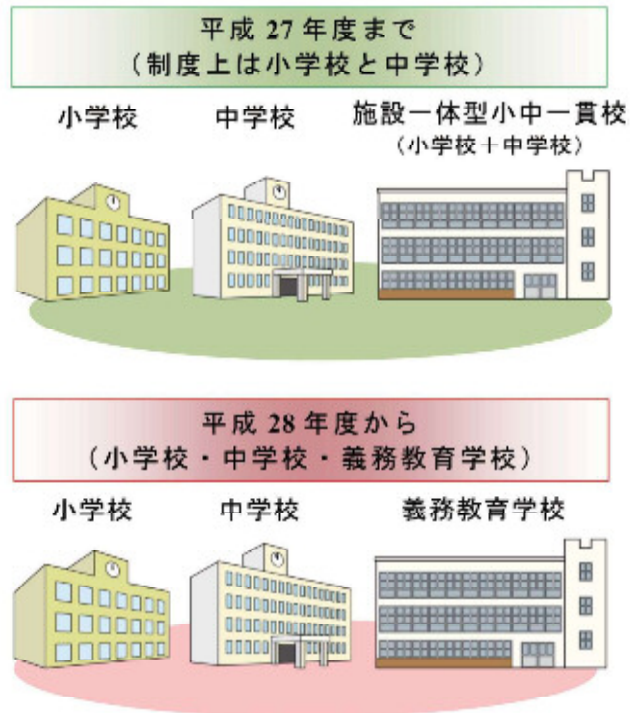


教育体制

6校の施設一体型小中一貫校を義務教育学校として位置付けました。品川区には小学校・中学校・義務教育学校の3校種が併存することになります。小学校と中学校の一貫教育、小学校と義務教育学校の一貫教育など、品川区立学校における義務教育9年間の新たな教育体制について検討していきます。

<義務教育学校の設置>

品川区では平成18年度から全国に先駆け小中一貫教育を開始しました。小学生と中学生が一つの施設で学ぶ施設一体型の小中一貫校も順次6校設置し、実践を積み重ねてきました。10年が経過し、この実践は全国に広がり、平成27年6月には学校教育法の一部が改正され、これまでの小学校、中学校等に加えて「義務教育学校」が新たな校種として位置付けられました。このことを受けて、本区では品川区立の施設一体型小中一貫校6校を平成28年4月1日から「義務教育学校」として新たに設置します。



地域との協働

これからの学校は、保護者や町会・自治会、同窓会を含めた地域の方々に、今まで以上に学校運営に主体的に参加していただき、共に学校づくりを進めていく体制が必要です。

そのための仕組みとして、**品川版**コミュニティ・スクールの設置を進めていきます。

コミュニティ・スクールとは

「学校運営協議会」を設置している学校をコミュニティ・スクールと言います。

「学校運営協議会」とは、地域住民や保護者の代表の中から、教育委員会が任命する委員で構成され、校長とともに学校運営を考えるための組織です。

品川版コミュニティ・スクール

<目的>

保護者、地域住民、学識経験者等が学校運営に参画することで、学校と地域住民が一体となり継続性を保ちながら、教育活動の改善や児童・生徒の健全育成に取り組みます。

また、地域全体で学校教育を支援することで、学校の教育活動が充実するとともに、地域人材の活用および地域の教育力の活性化を図ります。

<特徴>

学校運営に参画する「**校区教育協働委員会**」と実際に学校支援を行う「**学校支援地域本部**」の**2つの組織を同時に設置**します。

※品川版では「学校運営協議会」に準ずる組織として「校区教育協働委員会」を設置します。

品川版コミュニティ・スクールを支える2つの組織

校区教育協働委員会

<役割>

- 学校運営の基本方針を承認する
- 教育活動の評価をする
- 区費教職員の配置等について意見を述べる
- 学校支援活動の企画・調整をする

<メンバー>

学校管理職
保護者
地域住民
学識経験者
関係機関職員
卒業生
学校地域コーディネーター(※)



学校支援地域本部

<役割>

- 学校が必要とする教育活動などについての支援を行う

「学習や教育活動に関する支援」

- ・学習指導
- ・部活動指導
- ・学校行事の補助 など



「環境整備に関する支援」

- ・図書室整備
- ・校内清掃
- ・美化活動 など



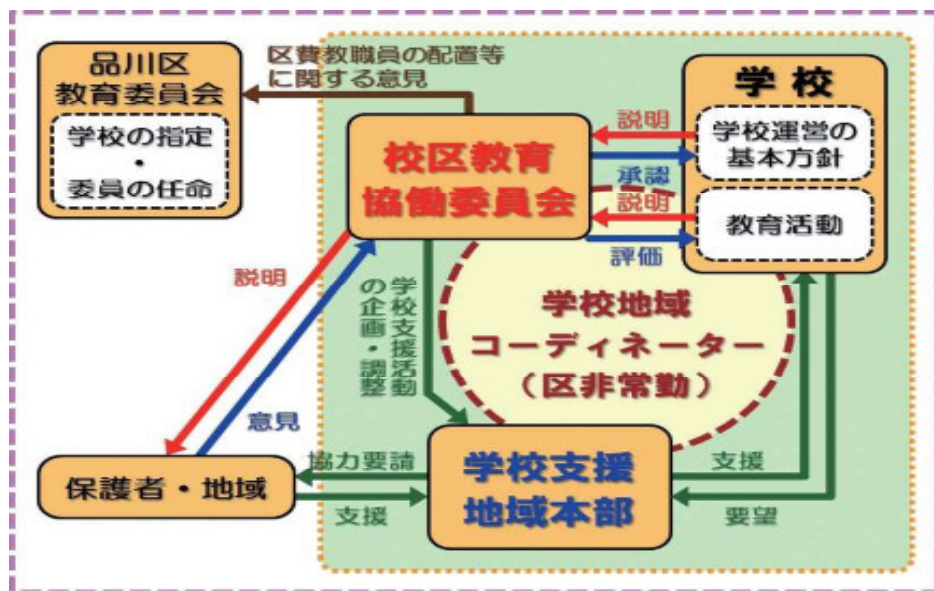
<メンバー>

学校地域コーディネーター(※)
学校支援ボランティア

(※)教育活動の支援を通して学校と地域をつなぐ役割をします。

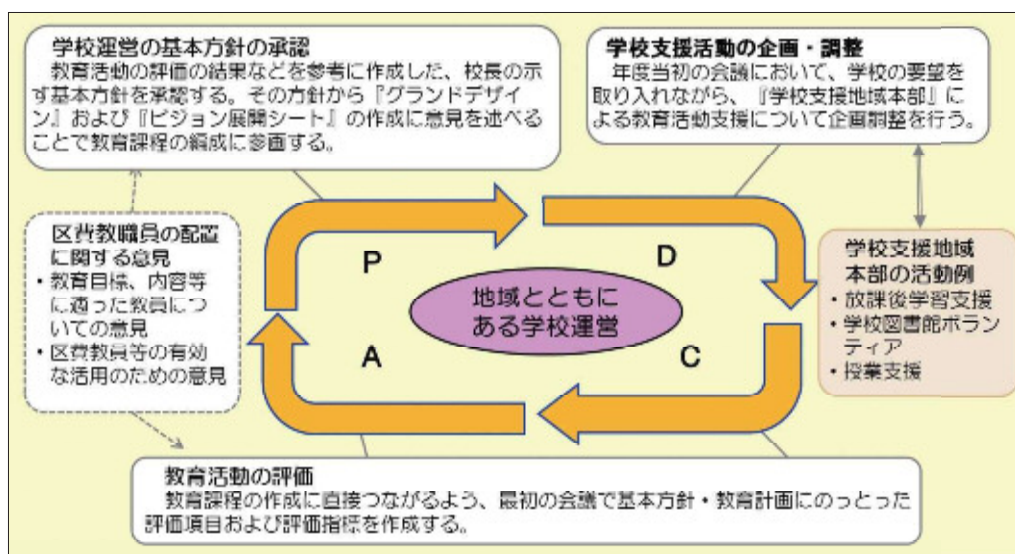
品川版コミュニティ・スクールの概要

学校、校区教育協働委員会、学校支援地域本部が一体的に、学校運営の基本方針の作成および教育活動を行っていきます。それぞれの組織の運営に関わり、学校と地域をつなぐため、学校地域コーディネーターが各学校に配置されます。



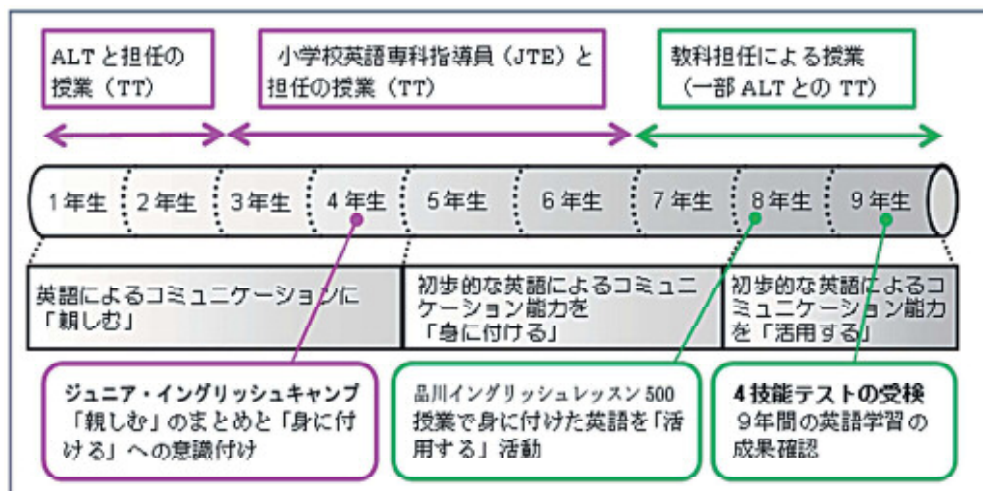
品川版コミュニティ・スクールにおける学校運営のPDCAサイクル

学校運営の基本方針について、校区教育協働委員会が承認をし、学校支援地域本部の支援を受けながら教育活動を展開していきます。教育活動は、学校の自己評価および校区教育協働委員会の関係者評価により評価されます。この評価を学校の教育活動の修正に活用したり、次年度の学校運営の基本方針につなげたりすることで、学校運営のPDCAサイクルが円滑に進みます。



また、地域住民や保護者が学校運営・学校支援に参画することが制度化され、継続して行われることにより、地域の担い手となる人たちに継続的な活躍の場が生まれることとなり、地域コミュニティの活性化が図られます。

品川区では、平成18年度から、1年生から6年生に「英語科」を新設しました。小学校の英語活動と中学校の英語教育をつなぐため、小学校には品川区独自のカリキュラムおよび教材を作成しました。9年間で「4-3-2」のまとまりで、児童・生徒の実態に応じた統一的で一貫性のある「英語科」としてカリキュラムを編成しました。



JTEと学級担任のTT による授業



3年生から6年生では英語指導の専門家であるJTEと学級担任が協力して授業を行います。

ジュニア・イングリッシュキャンプ



いろいろな国の出身の講師とゲームなどを通して、楽しみながら異文化学習を行います。

品川区グローバル人材育成塾



7年生から9年生の希望者を対象に、放課後に外国人講師の英会話レッスンを受けます。

品川イングリッシュレッスン500



パソコンを使って海外の講師とマンツーマンの英会話レッスン (25分×20回=500分) を行います。

イングリッシュキャンプ



グローバル人材育成塾生の希望者を対象に、2泊3日の英語漬けの生活を送ります。

4技能テストの受検

9年間の英語学習の成果を見るため、以下の4つの技能について、9年生の7月に業者作成のテストを受検します。

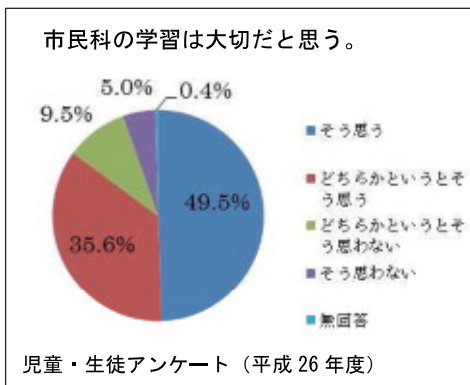
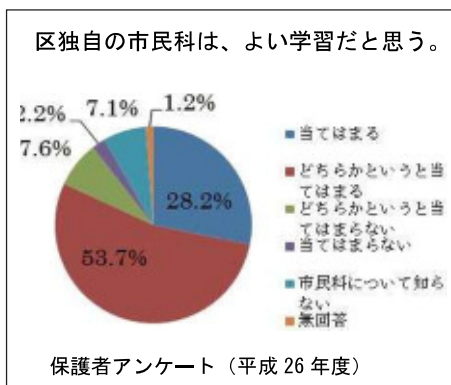
- Listening (聞く)
- Speaking (話す)
- Reading (読む)
- Writing (書く)

英語での面接試験は各校の教員が試験官となって実施します。

品川区では、平成18年度に小中一貫教育の軸となる「市民科」を創設しました。「市民科」は、社会の中で自己を自覚し、その一員としての役割を遂行できる資質・能力を「市民性」と捉え、その育成を目指した品川区独自の特別教科です。

市民科について

多くの子どもたち、保護者の方々が市民科学習のよさや大切さを感じています。



子どもたちは市民科学習を通して、自立に関すること、集団との関わりに関すること、社会全体に関わること等について実生活や実社会と関連付け、知識を習得するとともに、具体的な行動を身に付けるなど、総合的に学んでいます。

市民科学習の主な体験活動

市民科では、外部講師や団体の協力により、各学年に応じた様々な体験活動を段階的に実施しています。

学校茶道(3・4年)



茶道の体験を通して、正しい姿勢や丁寧な言葉遣い、礼儀作法を身に付けます。

スチューデント・シティ(5年)



労働者と消費者の両方の体験を通して、社会の仕組みを学習します。

ファイナンス・パーク(8年)



生活コストを試算することを通して、意思決定、将来設計力を高めます。

市民科と「特別の教科 道徳」との関連について

国では学習指導要領の一部改訂が行われ、「特別の教科 道徳」が位置付けられました。読み物教材を中心とした現在の道徳授業から、話し合いを通して課題解決を図る等の授業に見直しが行われています。市民科はすでに特別教科としての実績があり、今後も指導方法や指導内容の改善を行いながら、市民科学習を充実させていきます。

「体力・運動能力調査」(文部科学省)によると、子どもの体力・運動能力は、昭和60年ごろから現在まで低下傾向が見られます。品川区では、子どもたちが運動の楽しさを味わい、進んで運動し、体力を向上させることをねらいとして、三つの取組を行っています。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、品川区開催種目を中心に様々な取組を行っています。

品川スポーツトライアル(全校実施)

各学校は、運動時間が少ない子どもに対して様々な工夫を行っていますが、さらに、区では、全校をあげての取組が必要であると考え、全校で「品川スポーツトライアル」を実施し、運動の日常化を図っています。

運動が苦手な子どもからは「私にもできそう」と、運動する姿が見られました。また、運動が得意な子どもは、「1位を目指すぞ」と、意欲的に取り組みました。



テクニカルアドバイザー(平成28年度は実施校拡大)

子どもたちに「運動ができるようになった」と感じさせるためには、体育の授業を充実させることが重要だと考え、教員が体育の専門性の高いテクニカルアドバイザーと一緒に授業を行い、指導の充実を図っています。

子どもたちが、運動のポイントや動きのコツをつかむことができ、「運動ができた」「運動が楽しい」という声が聞かれました。



ワンミニッツエクササイズ(平成28年度より実施校を全校に拡大)

学校だけでなく、家庭でも運動することをねらいとして、1分間程度で行うことができる簡単な運動事例集「ワンミニッツエクササイズ」リーフレットを作成し、運動習慣の確立を目指します。

モデル校では、保護者と共に楽しく取り組むことで、毎日運動する子どもが増えました。



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

東京都から指定を受けたオリンピック・パラリンピック教育推進校(小学校7校・中学校4校)では、諸外国の歴史・文化や外国語学習による国際理解教育、アスリートやスポーツ指導者と幼児・児童・生徒との直接的な交流を行っています。

品川区ではホッケー、ビーチバレーボール、ブラインドサッカーの3競技が実施されます。平成28年度は都内の全公立学校がオリンピック・パラリンピック教育推進校に指定されることを受け、品川区ではオリンピック・パラリンピック教育を推進しています。

品川区では教室環境のICT化を進めています。ICTを活用した教育活動推進校・実践校を指定し、書画カメラ、電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ、教師用PCといったICT環境の整備を行いました。平成29年度には全校に整備する予定です。さらに推進校には、一人一台のタブレット端末を用意し、授業だけでなく、家庭学習にも活用しています。

タブレット端末を家庭に持ち帰ることができるのは本区の大きな特徴の一つです。指定された宿題を行い、翌登校日に端末の電源を入れると自動的に学習履歴が学習管理システムに送信されます。教師は児童・生徒の学習状況を把握し、個に応じた指導にも生かされます。

教室環境のICT化を進めるにあたり、授業スタイルも新しいものになっていきます。ICTを活用することによって子どもたちの学びに与える効果を考え、日々、授業実践を積み重ね、学力向上につなげていきます。

● 授業における活用

→資料だけでなく、手元の作業を大きく映すことができます。



→一斉授業では資料を大きく掲示することができ、理解の助けとなっています。



→お互いの考えをグループで伝え合う協働学習を行っています。



→タブレット端末に一人一人に合った課題を配布し、個別学習の充実を図っています。



ICTを活用して、児童・生徒の学力向上、教師の授業力向上を図ります。

● 家庭学習

→家庭科の身の回りの整理の単元で取り組ませた、部屋の片づけの課題。タブレット端末のカメラ機能を活用しています。



● 校外学習

→社会科見学でタブレット端末を持ち出し、記録を取っています。

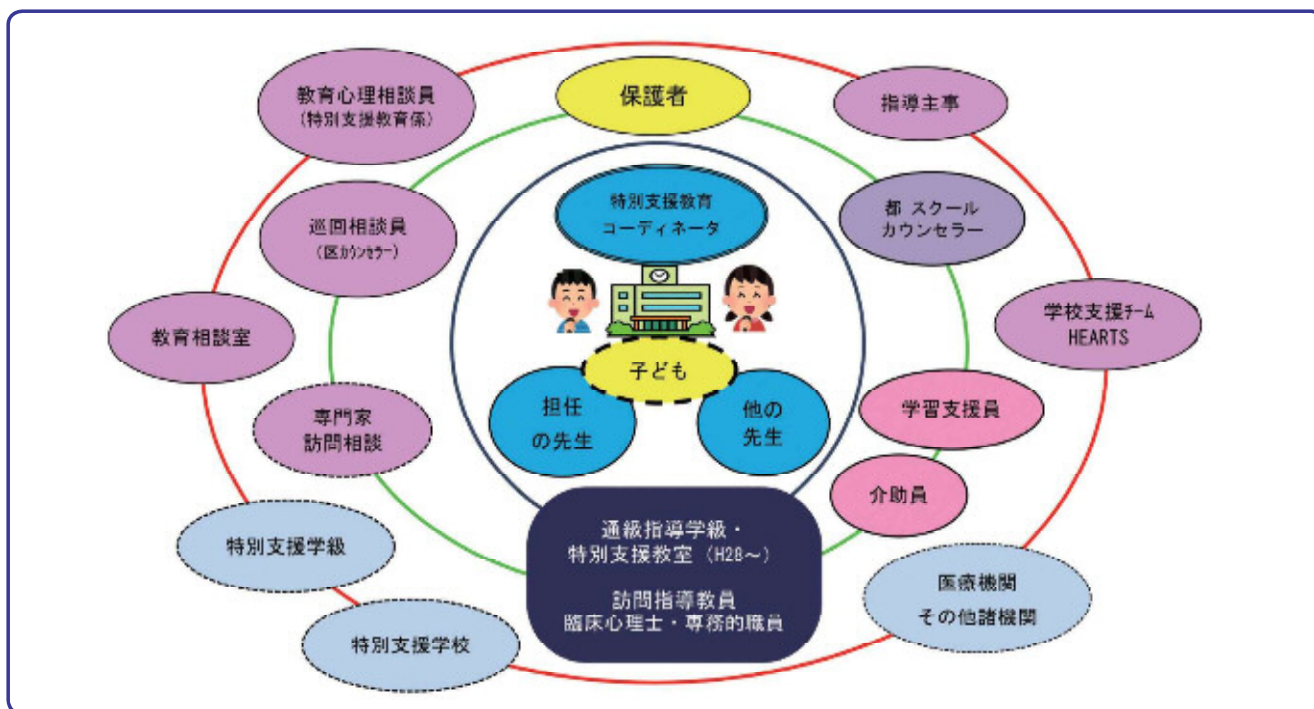


品川区では、教育総合支援センターが中心となり、外部機関等と連携しながら、個々の教育的ニーズに対応しています。また各学校では、特別支援教育コーディネーターが中心となり、教育心理相談員や巡回相談員等の助言を得たり、様々な教育資源を活用したりしながら、児童・生徒一人一人への支援を充実させています。

【教育総合支援センターの開設】



平成27年4月、教育に関する支援体制と相談、対応の充実を目的に、指導主事や特別支援教育係、学校支援チーム(HEARTS)、教育相談室などの組織と機能を集めた教育総合支援センターを設立しました。



特別支援教室

支援を必要とする児童の所属校に、拠点校から教員が訪問して指導をします。品川区では平成27年度にモデル実施を行いました。平成28年度からは、全区立小学校に特別支援教室を設置します。

特別支援教育コーディネーター

学校内で児童・生徒への適切な支援のために、関係機関等の連絡・調整をしています。

専門家による訪問相談

臨床心理士、作業療法士等の専門家が学校に出向いて、児童・生徒の学校生活を観察し、必要な助言をしています。

学習支援員／介助員

通常の学級に在籍する個別の教育的ニーズのある児童・生徒に対し、将来の社会参加や自立に向けた支援を行うことを目的として配置しています。

巡回相談員

特別な教育的ニーズのある児童・生徒の実態について観察し、学校やスクールカウンセラーと情報共有をするとともに、必要な助言・支援を行っています。また、各学校・学級の合理的配慮の状況と学習支援員・介助員の対応等が適切であるかに関する確認もします。

品川区は平成26年度より学校におけるICT機器の活用を推進してきました。特別支援学級においてもICT機器を有効に活用することで、個々の状況に応じた学習活動や支援を効果的に進めていくことができます。



- タブレット端末(iPad)の配備
 - ・特別支援学級、通級指導学級に導入
 - ・2人に1台の導入：合計285台
- インストールされているアプリケーションの数
 - ・通級指導学級：小学校50種類 中学校18種類
 - ・特別支援学級：小学校46種類 中学校50種類
- 電子教科書のインストール

主な取組事例

通級指導学級での実践例



① 一日の学習や行動を振り返る(自立活動)

その日に学習したことを、写真にまとめさせました。家族や在籍学級の先生、友達に伝えることを想定して一日を振り返ることで、「伝えたい」というコミュニケーションをとることへの意欲が高まりました。

② 読み書きや自立活動に関するアプリケーションの活用

(教科の補充指導・自立活動)

教科の補充指導では、国語や算数に関するアプリケーションを一人一人の習熟度に応じて個別指導で活用しています。また、ビジョントレーニングやソーシャルスキルトレーニングなどに役立つアプリケーションを使って、個別指導の充実を図っています。



特別支援学級での実践例

① 学習内容の説明での活用

教員による見本をタブレット端末で学んだ後に、自分の清掃や食事の様子を録画して見せることにより、子どもは自己評価ができました。見本と見比べることができ、自己評価の場面でも、改善点等を具体的に知ることができます。



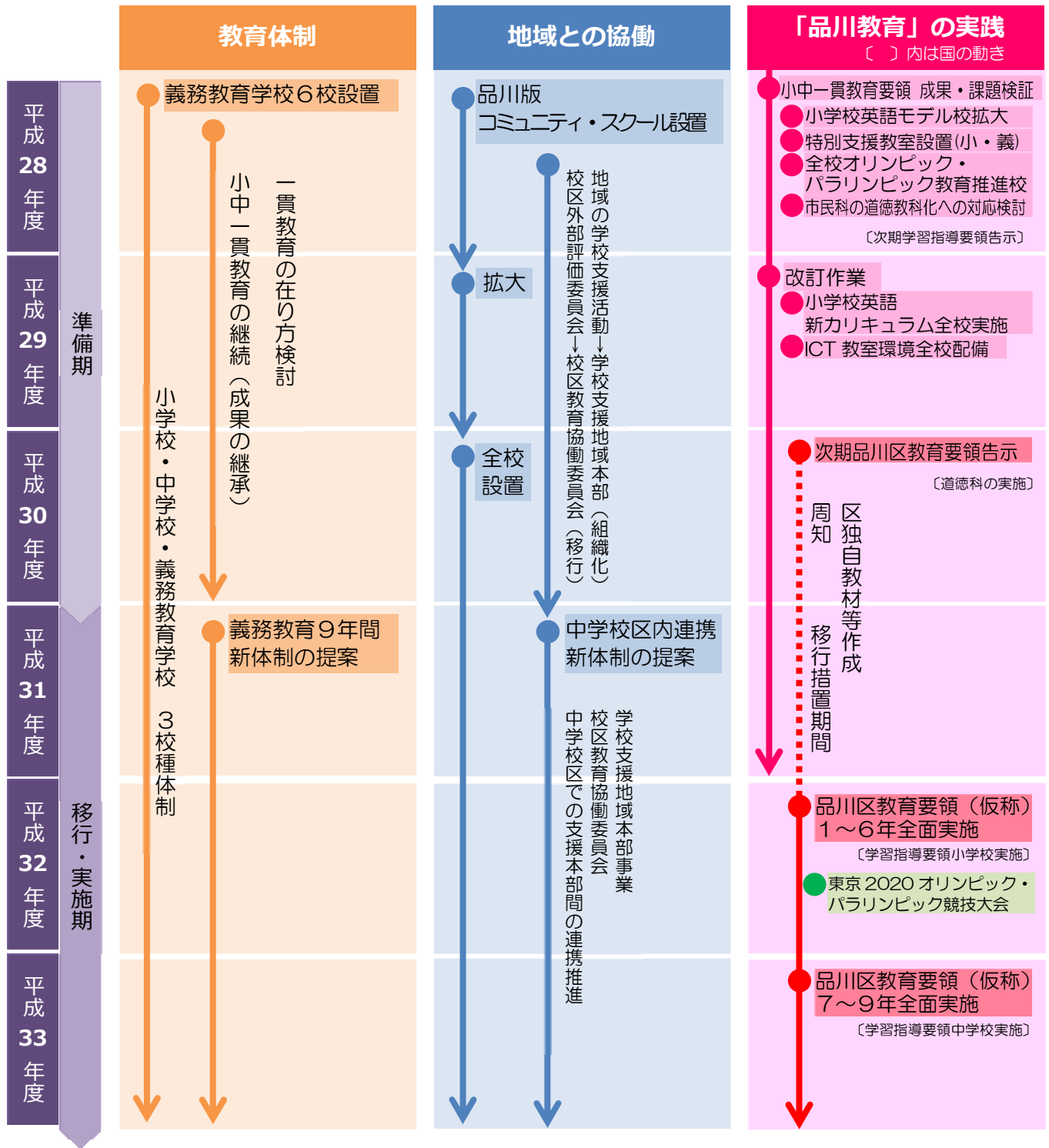
みずぶきの じょうずな かまえかた



② 校外学習および事後学習での活用

校外学習の時にタブレット端末を携帯し、カメラ機能を用いて写真を撮りました。事後学習として、記録したものを編集して写真を見せながら互いに発表し合いました。自立活動として、コミュニケーションスキルの指導にも役立っています。

品川教育ルネサンス -For The Next Generation-



品川区教育フォーラム

主催 品川区、品川区教育委員会
後援 文部科学省、東京都教育委員会